

各位

会社名 株式会社ダイサン
 代表者名 代表取締役社長 藤田 武敏
 (コード: 4750 東証スタンダード市場)
 問合せ先 戦略企画本部 本部長 多留 健二
 (TEL. 06-6243-6341)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2023年3月2日開催の取締役会において、2022年6月1日に公表いたしました、2023年4月期の通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想数値の修正 (2022年4月21日～2023年4月20日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,200	百万円 230	百万円 240	百万円 110	円 銭 17.15
今回修正予想 (B)	10,602	△76	△11	△92	△14.35
増減額 (B - A)	402	△306	△251	△202	△31.50
増減率 (%)	3.9	—	—	—	
(参考) 前期連結実績 (2022年4月期)	9,700	△16	79	50	7.82

(注) 上記の業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づいて作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 修正の理由

2023年4月期通期の連結業績予想につきましては、連結営業利益、連結経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前回発表予想を下回る見込みとなったため、修正いたします。

修正の主な要因として、施工サービス事業においては、主要な取引先であるハウスメーカー様の業績は好調に推移しておりますが、新設住宅着工戸数は貸家及び分譲住宅が前年比で増加したものの、持ち家については減少となりました。

施工人員の確保においては、入国制限中に採用を進めていた特定技能及び外国人技能実習生を一斉に国内に迎え入れることができたため、施工スタッフ数を大幅に増やすことができましたが、配属のための諸経費および、現場稼働までの時間を要する期間における固定費が増加し、利益を圧迫する結果となりました。また、外部の施工ネットワーク構築に向けた活動も実を結び、さらなる施工力の拡大も進めてまいりましたが、人件費を含むコスト増加による価格転嫁が想定通りに進まなかった結果、利益は当初予想を下回る見込みとなりました。

製商品販売事業においては、資材価格の高騰により先行き不透明な状況が続き、建設用仮設機材のレンタル需要が高まったことにより「ビケ足場®」の売上高が伸び悩みましたが、営業活動を積極的に推進した次世代足場「レポルト®」は引き合いが増加しており、過去最高の売上高を更新する見込みとなりま

した。原材料価格の高騰に対して前期末から製商品の販売価格引き上げを継続した結果、利益率の改善が当初予想を上回る見込みとなりました。

海外事業部において、在外子会社のあるシンガポールでは、新型コロナウイルスの影響による規制が緩和され、景気の回復が進みました。このような状況の中、プラント向け人材派遣を中心にコロナ禍前の水準近くまで受注の回復が進みました。しかし、入国制限期間においては、現場スタッフを確保するための採用費が増加すると見込んでおりましたが、迅速な確保を優先したことによる採用費の前倒し計上、寮の供給不足など入国制限解消後の固定費が想定以上に利益を圧迫したことから、利益は当初予想を下回る見込みとなりました。

なお、現時点において、配当予想についての修正はございません。

以 上